

電磁波吸収テープ NRF-005T の導入(8)(HP 収載)

—仮想アースへの適用(8)—

1. 始めに

前方(7)に引き続き、旭化成の Pulshut を応用したオヤイデの電磁波吸収テープ NRF-005T の仮想アースへの適用を検討します。

2. 電磁波吸収テープ NRF-005T の試方法

今回は、仮想アース Crystal E の導入(28)で製作した仮想アース 7号機を改造します。仮想アース 7号機は、木炭とグリーンカーボランダムを使用したものですが、あまり使用していないので、内部に埋めた銅板の表裏に NRF-005T を貼り、効果の増強を図ってみます。また、同時に蓋つきの容器とします。



仮想アース 7号機



銅板に NRF-005T を貼り付け



仮想アース 7号機 (改)



同左 共用アースラインに接続

そしてこの仮想アース 7号機 (改) を前報(7)で検討した GARRAD401 再生系の共用アースラインに接続してみます。なお、アームの FR64S に手を触れると、ハムレベルが変わることから、アームレストから共用アースラインにもアースを採りました。試聴は、前報(7)と同じく GARRAD401によるアナログ再生です。

3. 電磁波吸収テープ NRF-005T の試聴結果

チェンバロ協奏曲では、前報(7)における3ヶ所への NRF-005T の貼り付けで繊細感が出ていますが、仮想アース7号機(改)を接続しますと、顕著ではありませんが、全体の響きが豊かになってきます。

ミトマニアでは、前報(7)における3ヶ所への NRF-005T の貼り付けでボーカルが明晰になり、古楽器の質感が向上していますが、仮想アース7号機(改)を接続しますと、顕著ではありませんが、さらにボーカルと古楽器の質感が向上してきます。

倍賞千恵子では、前報(7)における3ヶ所への NRF-005T の貼り付けで倍賞千恵子のボーカルのニュアンスやバックの楽器の音像が明瞭になっていますが、仮想アース7号機(改)を接続しますと、顕著ではありませんが、さらにボーカルのニュアンスや楽器の質感が向上してきます。

GARRAD401 再生系の Ortofon SPU Royal N と iPhono の組み合わせは、柔らかい音が身上でしたが、やや解像度が甘い印象がありました。今回の効果は、前報(7)の効果との合わせ技で解像度が向上し、質感も向上してきましたので、仮想アース7号機(改)はこのままで使用することにします。

4. まとめ

GARRAD401 再生系の共用アースラインへの仮想アース7号機(改)の接続は、顕著ではありませんが、若干の効果を認めました。

以上